

特別養護老人ホーム 皆生みどり苑

1 基本方針

- 個人の尊厳を尊重し、安心安全な生活が送れるよう支援する。
- 利用者一人ひとりの生活リズムに合わせた個別ケアを推進し、その人らしさを大切に
した生活を提供する。
- 施設機能を活用した地域貢献を行うとともに、積極的な情報公開により透明性を高め、
信頼される施設を目指す。
- 社会のニーズに応じ、高齢者・障がい者等が共に暮らす共生社会づくりに貢献する。

2 利用者の状況（令和6年3月31日現在）

（1）入退所の状況

定 員		前年度末 利用者数	令和 5 年度中の入退所状況					利 用 延人員	年間平均 稼 働 率	年 度 末 利用者数
			入所	退所	退所理由別					
					施設 移管	契約解除 (入院等)	死亡			
100人		99人	29人	30人	0人	5人	25人	35,648人	97.40%	98人
4 年度	100人	100人	27人	29人	0人	1人	27人	35,368人	96.90%	99人

（2）利用者の介護度別人員

性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男 性	0人	0人	2人	6人	9人	17人
女 性	1人	0人	6人	40人	34人	81人
計	1人	0人	8人	46人	43人	98人

（平均介護度4.36）

3 事業の実施状況

（1）重度者ケアの充実

- ア 嚥下機能低下防止、褥瘡予防及び心身状況に応じたケアの提供のため、必要な情報を
サービス担当者会議等により多職種で共有し、安心・安全な生活環境の提供に努めた。
- イ 職員と利用者双方の負荷軽減のため、身体状況に応じたポジショニングクッション等の
福祉器具を選定した。またノーリフトケアの実践のため、職員を対象にポジショニングや
移乗の研修を実施した。加えて、理学療法士が職員個々に負担の軽減に必要な助言をした。
- ウ 嘱託医と職員が利用者の情報を共有し、経管栄養及びたん吸引などの医療的ケアを提供
した。加えてその他医療機関との連携も図り、利用者への適切な対応と健康管理に努めた。
- エ 穏やかに最期を迎えられるよう、身体への負担軽減に必要な情報を多職種で共有した。
またご家族と緊密な連絡を取り、利用者やご家族の気持ちに寄り添ったケアとなるように
努めた。さらに、職員に対してはターミナル研修とターミナルケア後の振り返りを実施し、
資質向上と精神的な負担の軽減を図った。

(2) 個別ケアの充実

ア 24時間シートを活用したケアを実践した。シートには利用者の生活リズムや意向を反映させ、かつ定期的に見直しをすることでケアの質の向上及び現状の把握に努めた。加えて、入所時は事前の聞き取りなどから従前の生活環境に近付ける工夫をした。

イ ICT機器の導入による業務改善について、複数の機器を導入し活用方法の検討をしたが、特に介護記録用ソフトの活用度は職員間の差が大きい。また現時点でもナースコールと見守り機器との連動が完了していない。しかし、今後求められる更なるICT化への対応、職員の負担軽減及び利用者の安全並びに介護サービスの質の確保のため、記録の電子化をより推進し、また新たな機器の導入などを検討していく。

ウ 利用者の意向に沿った食事の提供及び満足度の向上の取組みについて。嗜好調査の結果及び給食委員会における協議結果を献立に反映させた。また、嚥下や咀嚼状況が低下した利用者に対して安全でおいしい食事の提供を検討した。また満足度向上は合同食事会等の各種行事における献立を工夫し、好評であった。

エ 新型コロナウイルス対策に配慮しながら、今年度は外部のボランティアを招いた行事に加え、施設内で夏祭りや大福茶会など可能な限り多くの行事を実施した。日常の生活とは違う環境を提供し、多くの利用者に喜んでいただいた。

オ 入所前の状況をもとに嘱託医と連携し、入所前から受けていたケアなどを含め、個々の状態にあった治療等を受けられる環境を可能な限り整えた。

(3) 安定した施設運営

ア (ア) 入所及び地域密着の稼働率は、目標 97 % に対し 97.40 %、短期入所の稼働率は、目標 50 % に対し 27.11 % であった。入所及び地域密着の稼働率は目標を超えた。

短期入所は新規利用者の確保を試みたが継続利用に繋がらなかったこと、加えて新型コロナによる受入れの中止が要因で目標を大きく下回った。新規利用者と継続利用者の確保が課題である。

(イ) 欠員期間は、空床期間を短縮すべく早期の入所面接を図ったが、面接後に入所を断られる等の理由により、目標の欠員期間 10 日に対し 12.45 日となった。

イ 感染症対策は、新型コロナウイルスの罹患者発生時など、必要に応じて速やかに会議を開いた。対応策などをさくら連絡網で全職員に発信し、情報共有と注意喚起を促した。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	受入期間	実人員	延人員
YMCA 米子医療福祉専門学校	5 月～ 6 月	2 人	3 4 人
米子北高校	9 月	4 人	2 0 人
計		6 人	5 4 人

(2) ボランティアの受入実績

敬老週間行事（ハーモニカ演奏等） 延べ 1 5 人

5 付帯事業

(1) 短期入所事業 定員 併設6名及び空床型

年度	実人員	延人員
令和5年度	12人	592人
令和4年度	15人	950人

(2) 高齢者世話付住宅援助員派遣事業 定員 22世帯

相談等状況	訪 問	電 話	その他	合 計
安否・健康状態の確認	1,081件	0件	4,449件	5,530件
生活支援・相談	378件	82件	0件	460件
緊急時の対応	0件	44件	0件	44件
合 計	1,459件	126件	4,449件	6,034件